

# 現役救急医ならではの視点で、AIの可能性を広げる 医療現場の課題を的確に捉えた、画像診断システムERATS

### 事業内容

2020年設立  
全身検索型画像診断AI ERATSの提供

### 知的財産権と内容

特許第7100901号	重症度評価装置、重症度評価方法、及びプログラム
特許第7425508号	重症度評価装置及びモデル生成装置
特許第7511276号	情報処理装置、情報処理方法、情報処理プログラム、情報処理システム
商標第6557053号	fcuro
商標第6621573号	ERATS

他 国際特許権1件、商標権2件

(2025年6月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



左:代表取締役CEO 岡田 直己さん  
右:取締役CTO 井上 周祐さん

### 現役救急医・外科医が 医療現場をサポートするAIシステムを開発

当社は、現役救急医・外科医である岡田CEOによって2020年に設立された。医師の人数に限られる救命救急の現場において、CT画像の目視による確認が負担となっていたところ、「膨大な白黒情報から高輝度の出血箇所を選び取るというシンプルな仕組みだからこそ、AIで代替できるのではないかと考えた岡田CEOが、学生時代に部活で共に汗を流した同級生であり、当時大手企業で、写真から料理名や素材を解析するAI技術等を開発していた井上CTOとともに事業を開始。独立行政法人情報処理推進機構が運営する「未踏事業」を活用しながら、息の合ったチームワークを活かして代表的な製品である『全身検索型画像診断ERATS（イーラツ）』を生み出した。これは全身のCT画像の中から10秒以内に異常部位のみを抽出できるAIシステムで、医師の迅速な判断をサポートするものとして医療業界でも注目を集めている。現在は試験導入フェーズであるが、実際に患者に使用される場面も出てきており、今後さらに普及が期待される状況だ。

### 自ら積極的に動き 弁理士の力を借りて特許と商標を取得

知的財産権の取得に至ったきっかけは、岡田CEOの「アイデアを形にしてみたい」という前向きな好奇心からだった。特許出願に係る明細書に関しても論文を書く

ような感覚で、井上CTOとともにまずは独学でチャレンジし、自分たちの言葉でどこに独自性を見出せるかを整理したという。その後は未踏分野ということもあり、自分たちの事業専門の弁理士は当然いなかったが、技術や将来性を理解して取り組んでくれる、信頼のおける弁理士に恵まれ、知財戦略を明確にする上でも非常に助けられた。結果、『全身検索型画像診断ERATS（イーラツ）』に関する複数の特許、および商標を取得することができた。特許に関してはアルゴリズムやユーザーインターフェース（画面の見え方）などにより分割して出願することで、他社との差別化を明確にするといった工夫も行っている。今後は医療現場におけるロビー活動の重要性も踏まえつつ、知財戦略に一層力を入れていく方針だという。

### 知財を「心の安定」として戦略にも大いに活用

岡田CEOは、「知財を取得したことは“心の安定”に繋がっている」と話す。近年めざましい発展を遂げるAI分野、かつ普遍的な需要が見込まれる医療現場に向けた製品ということもあり、過去には模倣による権利侵害を受けた経験もあった。しかし、その際にも特許や商標といった確固たる証明を保有していたため、内容証明を送るなど冷静に対処することができたという。また、技術の実証実験を進める中で、知財によるプロダクトの保護が、契約や開示をスムーズにしていると

感じることも多い。こうして知財の重要性を改めて認識し、過去にはINPITの支援事業「知財アクセラレーション事業（IPAS事業）」も活用した。この時、海外進出を見据え、知財を出願すべき国や技術領域を含む具体的な戦略を検討したことが、欧米での国際特許を出願する契機にもなったという。2022年にはその積極的な姿勢が評価され、日本弁理士会が主催する「第9回知的財産活用表彰」にて、知的財産活用奨励賞（知的財産戦略部門）を受賞した。

## 知財取得・活用における苦悩



今となっては当社に欠かせない知財だが、はじめは「時間と費用がかかる」ことを懸念し、チーム内で出願を反対されたこともあった。しかし、岡田CEOと井上CTOは知財の可能性を信じ、諦めずに出願を進めた。また、慣れないうちは出願の流れが掴めず、一つ一つの手続きに時間がかかりすぎてしまったり、革新的な試みがゆえに弁

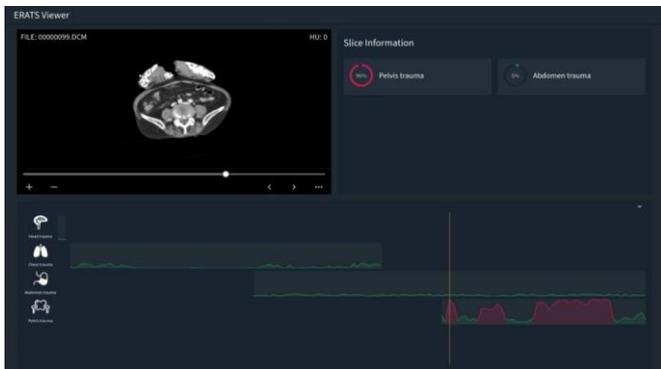
理士との意思疎通が難しく、資料の共有やすり合わせに苦勞したりといった問題もあった。これについては信頼のおける弁理士と顧問契約を行い、知財特化型のチームを組んだことや、IPAS事業を通じて様々な顧問からアドバイスを受けることで解決を図り、結果としてより効率的な知財戦略に結び付いたという。

## 知財取得を目指す経営者へのメッセージ



「特許の取得は、“目的”ではなく“手段”になるべき。目的に対してどう動くかを考えることが、費用対効果にも繋がる」と岡田CEOは話す。

また、「様々な場面で開発した製品を紹介してから、どの部分に独自性があるかを特許を交えて示すのが最も効率が良い」とも併せて語り、「当社のようなスタートアップ企業が大企業と対等な関係を築くためには、より一層知財の強化を進めねばならないと思っている」と続けた。



救急現場において「重症度」を迅速に評価できるERATS (Emergency Room Automated Triage System)



適切かつ円滑な実装に向け、医療現場における様々なプロが関わっている



## 知的財産活用のポイント

### 現場と密に連携できる医師ならではの強みと知財に対する堅実な取り組み

岡田CEO自身が医師として現場で活躍していることから、“現場と一体化”し、新たなアイデアが生まれやすい環境が整えられている当社。臨床試験が必要なシステムだからこそ、信頼できる医師と協業することで、リスクを抑え慎重に開発や活用を

進めているようだ。INPITの「IPAS事業」をはじめ、AMEDのMedical IP Desk（医療分野専門の知財相談窓口）やJETRO外国出願補助金など、数多くの支援事業を利用している点からも、知財戦略に対する積極的な姿勢がうかがえる。岡田CEOの先進的なアイデアと、それを支える井上CTOの技術力、そして互いのビジネスに対する堅実な取り組みが、医師の仕事を補う『ERATS（イーラツ）』のさらなる可能性を広げていく。

## COMPANY DATA

取材：2025年6月

企業名：株式会社fcuro 所在地：大阪府大阪市旭区今市1-13-13 電話番号：050-6873-6556

URL：<https://fcuro.com/> 創業：2020年 資本金：100万円 従業員：21名（アルバイト含む）

